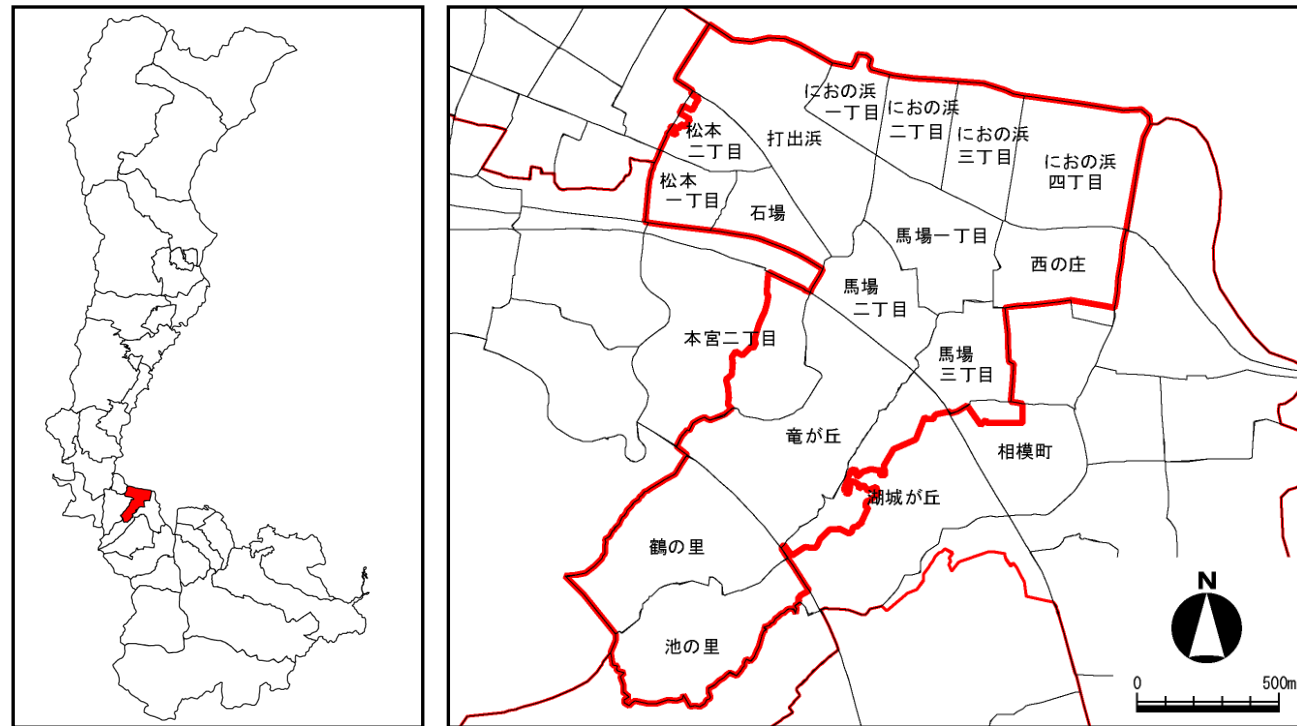


■ 学区の概況



<町丁名>

本宮二丁目の一部、西の庄の一部、馬場一丁目、馬場二丁目、馬場三丁目、鶴の里、石場、松本一丁目、松本二丁目の一部、打出浜、竜が丘、におの浜一丁目、におの浜二丁目、におの浜三丁目、におの浜四丁目、相模町の一部、湖城が丘の一部、池の里

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

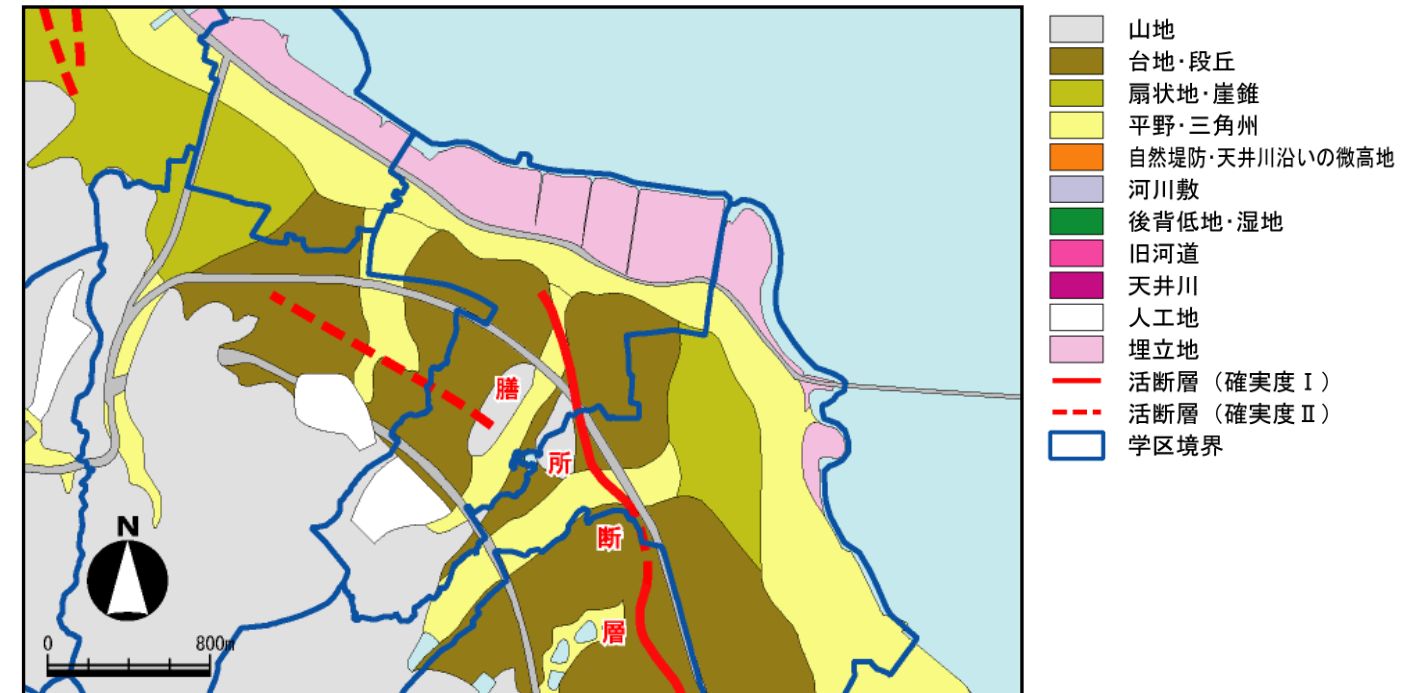
<学区の特徴>

平野学区周辺は東海道の五十三番目の宿であり、京の都への玄関口として栄えてきた。古くから湖上交通が盛んであり、平安京の外港として重要な機能を果たしていた。現在でも当時の繁栄ぶりを伝える文化財や町並み、町屋が多く残っている。

琵琶湖岸沿いには、水に親しめる公園としてなぎさ公園が整備され、一年を通じて様々な催しが行われるなど憩いの場となっている。なぎさ公園内の打出の森には県立劇場びわ湖ホールがある。このほか、滋賀県警本部、大津警察署、県立体育館、勤労福祉センター、老人福祉センターなどの公共施設や、大型のショッピングセンターも多く存在し、最もにぎわいのある地区のひとつである。

国道1号と名神高速道路に挟まれた区域やそれよりも山側では、昭和30年代から宅地開発が進んでおり、竜が丘、湖城が丘、鶴の里、池の里などの住宅地域が形成されている。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

<地形の特徴>

- 平野地域の地形は、JR 琵琶湖線付近を境として琵琶湖側には低地が広がり、山手側には丘陵地が広がる。南西部から名神高速道路付近までは、主に山地が分布している。
- 鶴の里付近は、人工地に区分されている。
- 大津草津線よりも湖岸側のにおの浜地区は埋立地であり、近年整備が進められている。

<地質の特徴>

- 山地部は、主に丹波帯とよばれる中生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の碎屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 丘陵地は古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約 200 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

<活断層の特徴>

- 学区の北東部には、膳所断層の北部が通過している。膳所断層の主要部分は、馬場から国分付近まで延びる、長さ約 4.5km の活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。



■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) ^(注1)	不燃領域率 (%) ^(注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
本宮二丁目	74.6	79.3	64.9	48.0
西の庄	74.3	61.5	78.3	57.7
馬場一丁目	84.5	90.3	54.2	60.4
馬場二丁目	96.9	88.5	54.4	52.6
馬場三丁目	75.5	68.8	74.6	58.0
鶴の里	54.5	76.9	60.5	38.5
石場	95.8	57.4	73.9	46.5
松本一丁目	68.0	70.2	79.9	60.0
松本二丁目	101.1	60.1	79.5	66.7
打出浜	54.0	95.1	47.0	60.3
竜が丘	77.3	72.7	66.9	41.9
におの浜一丁目	-	-	0.0	0.0
におの浜二丁目	-	-	5.6	-
におの浜三丁目	42.2	96.4	9.7	28.6
におの浜四丁目	53.4	97.2	18.1	6.7
相模町	82.2	91.2	47.9	68.6
湖城が丘	74.7	59.1	79.0	37.9
池の里	65.4	71.8	59.9	0.0
学区平均	70.9	78.9	66.9	44.4
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1：大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2：資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は 70.9 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 78.9% で市平均の 93.9% より低い。
- 木造率は、松本一丁目 が 79.9% で最も高く、におの浜一丁目 が 0.0% で最も低い。学区平均は 66.9% で市平均 72.7% より低い。
- 旧耐震木造建物割合は、相模町 が 68.6% で最も高く、におの浜一丁目、池の里 が 0.0% で最も低い。学区平均は 44.4% で市平均 40.3% より高い。

■ 人口の状況

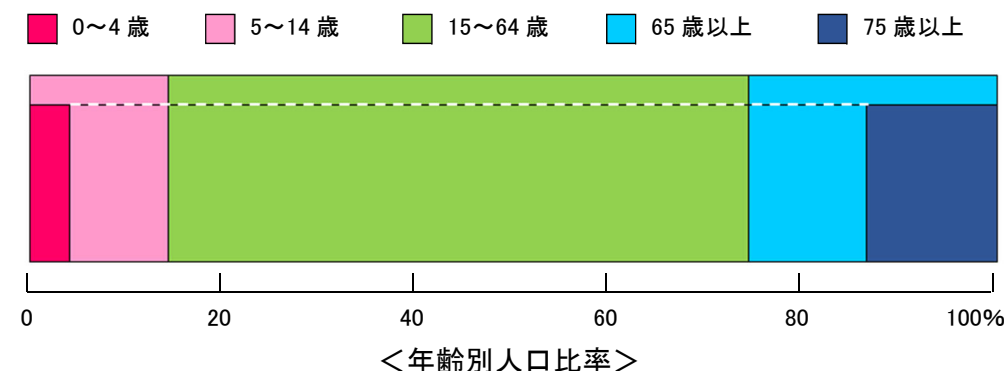
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	18,810	人		-	1
年齢別 (0~4 歳)	768	人	学区人口に対する割合	4.1	1
年齢別 (5~14 歳)	1,905	人	学区人口に対する割合	10.1	1
年齢別 (15~64 歳)	11,286	人	学区人口に対する割合	60.0	1
年齢別 (65 歳以上)	4,851	人	学区人口に対する割合	25.8	1
年齢別 (75 歳以上)	2,547	人	学区人口に対する割合	13.5	1
世帯数	8,099	世帯		-	2
1 世帯当たり人口	2.3	人/世帯		-	2
要介護認定者	827	人	学区人口に対する割合	4.4	3
身体障害者 (要配慮者)	230	人	学区人口に対する割合	1.2	4
知的障害者 (要配慮者)	32	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	215	人	学区人口に対する割合	1.1	5

(注) 1 世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1：年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31 現在)、2：学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31 現在)

3：学区別要介護認定者 (R4.4.30 現在)、4：大津市データ (R4.3.31 現在)

5：住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 山地部を除く範囲は人口集中地区 (D I D 地区) である。
- 学区人口は、市内で 2 番目に多い。
- 高齢者 (65 歳以上) は 4851 人、乳幼児 (0~4 歳) は 768 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 25.8%、4.1% である。
- 高齢者の学区人口は、市内で最も多い。
- 乳幼児の学区人口は、市内で 3 番目に多い。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より高い。
- 要介護認定者は 827 人 (4.4%)、身体障害者 (要配慮者) は 230 人 (1.2%)、知的障害者 (要配慮者) は 32 人 (0.2%) である。
- 外国人居住者は 215 人 (1.1%) である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所（注1）	3 箇所	1
土石流危険渓流（注1）	2 箇所	1
土砂災害特別警戒区域（注1）（注2）	14 箇所	2
土砂災害警戒区域（注1）（注2）	24 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹）（注1）	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流）（注1）	0 箇所	3
雪崩危険箇所（注1）	0 箇所	4
地すべり防止区域（注1）	0 箇所	5
地すべり危険箇所（注1）	0 箇所	1
浸水想定区域（注3）（0.0m～0.5m）	150,386 m ²	6
（0.5m～1.0m）	265,417 m ²	6
（1.0m～2.0m）	216,275 m ²	6
（2.0m～）	9,742 m ²	6
特に重要な水防区域（注1）	0 箇所	7
重要水防区域（注1）	0 箇所	7
防災重点農業用ため池（注1）	0 箇所	8

（注1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

（注2）複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

（注3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）
 3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）
 6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
 7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 平野学区のほとんどは湖岸沿いの埋立地および平野・台地・段丘という地形地質環境であるため、市内の中でも自然災害危険地に指定されているエリアが少ない学区であるが、学区南西部の人工地を挟む形で土石流危険渓流の影響範囲に指定されている。また、急傾斜地崩壊危険箇所も点在する。
- 豪雨などの場合には、土石流危険渓流、山地災害危険箇所および急傾斜地崩壊危険場所部分に警戒が必要であり、内水氾濫にも注意が必要である。
- 湖岸沿いの市街地部には、琵琶湖湖面の上昇による浸水想定区域が広がっており、琵琶湖からの浸水に注意が必要である。
- 学区中央部には膳所断層が通過している。地震発生について、膳所断層が直接活動した場合は断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。
- 地震時には、土石流危険渓流の影響範囲や急傾斜地崩壊危険箇所において、2次的に災害が発生する可能性があることにも留意する必要がある。
- 湖岸沿いの埋立地部では、液状化が発生する可能性がある。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	平野小学校グラウンド	○	○	○		馬場一丁目 2-1
	平野幼稚園グラウンド	○	○	○		馬場一丁目 5-28
	滋賀県立大津高校グラウンド	○	○	○		馬場一丁目 1-1
	滋賀短期大学グラウンド	○	○	○		竜が丘 24-4
	大津湖岸なぎさ公園打出の森	○		○		打出浜 15
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	平野市民センター	○	○	○		馬場三丁目 15-45
	平野小学校体育館	○	○	○		馬場一丁目 2-1
	平野幼稚園	○	○			馬場一丁目 5-28
	滋賀県立大津高校体育館	○	○	○		馬場一丁目 1-1
	滋賀短期大学	○	○	○		竜が丘 24-4
	旧市立大津市民病院 附属看護専門学校	○	○	○		石場 10-53
	勤労福祉センター	○		○		打出浜 1-6
	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	○		○		打出浜 15-1
	滋賀県立県民交流センター（ピアザ淡海）	○		○		におの浜一丁目 1-20
	県立武道館	○		○		におの浜四丁目 2-15
	県立体育館	○		○		におの浜四丁目 2-12
指定避難所	（福）中老人福祉センター			—		打出浜 1-5
	（福）障害者福祉センター			—		におの浜四丁目 2-33
	（福）やまびこ総合支援センター			—		馬場二丁目 13-50
	（福）におの浜ふれあいスポーツセンター			—		におの浜四丁目 2-40

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
平野市民センター	馬場三丁目 15-45	522-6276

<警察 110>

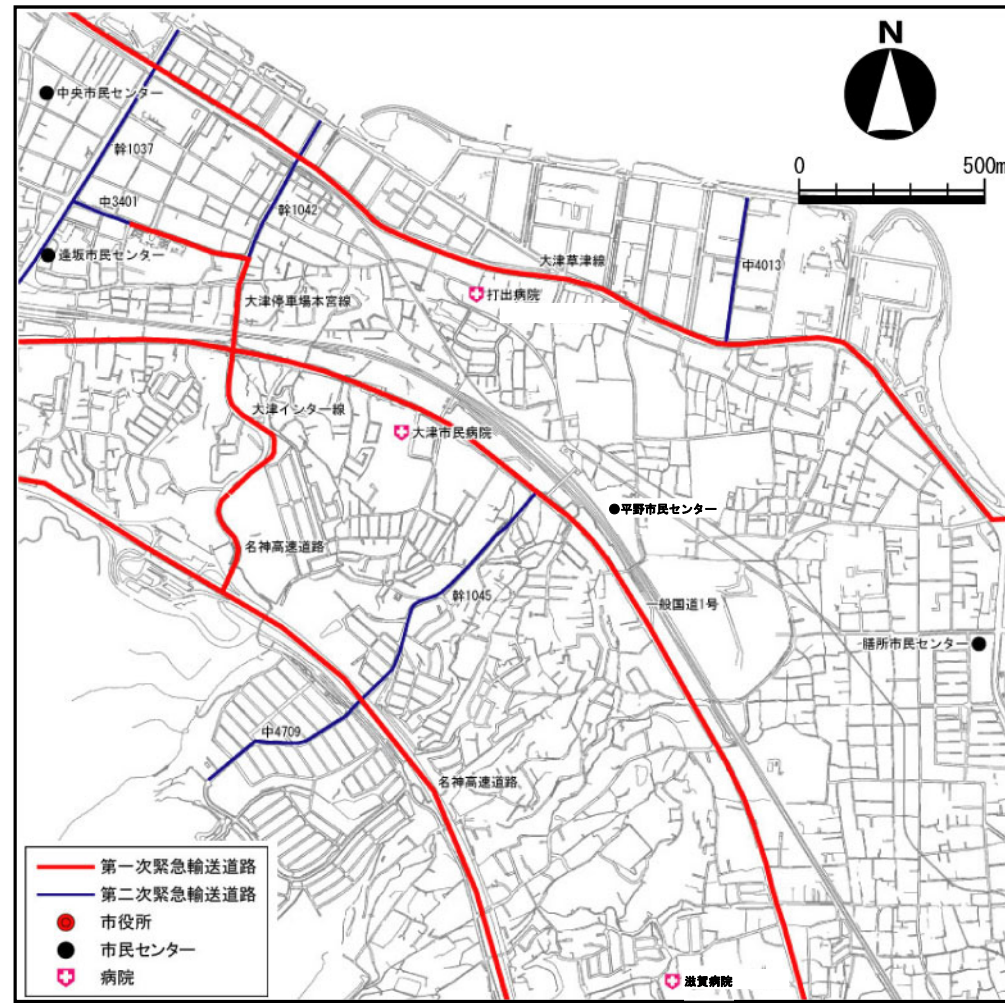
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津警察署	打出浜 12-7	522-1234
膳所駅前交番	馬場二丁目 11-9	521-1020

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
中消防署	御陵町 3-1	525-0119
平野分団	打出浜 12-41	525-7614



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111
病院	打出病院	打出浜 10-41 521-0005	

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	3,957	14,777	465	1,150	1,040	7	9	7	363	438	341	19	24	19
ケース2	3,957	14,777	1,526	995	2,023	47	56	43	194	259	194	10	13	10
ケース3	3,957	14,777	1,408	1,012	1,914	50	67	50	176	231	170	9	12	9

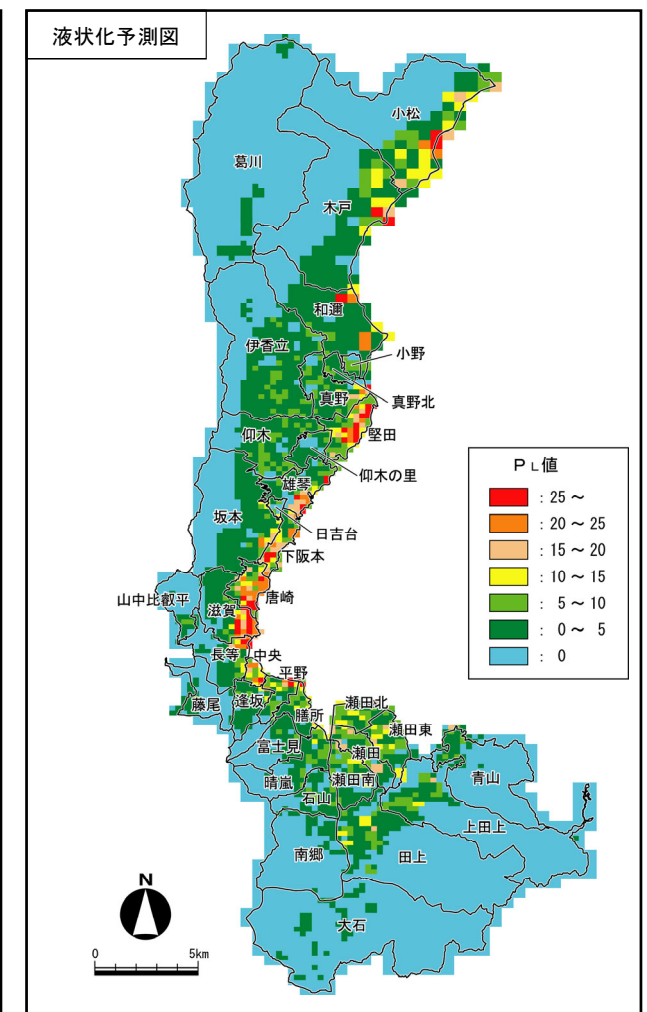
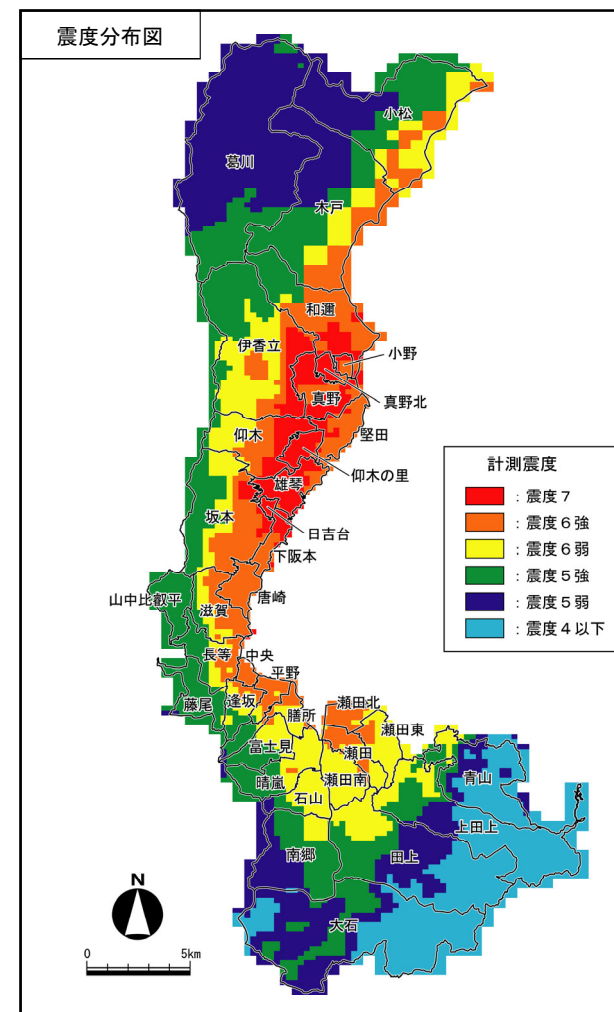
被害想定ケース	地震火災炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	1	1	2	1,632
ケース2	1	3	4	2,580
ケース3	2	3	5	2,606

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

(PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
PL ≥ 20 激しい液状化)

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

